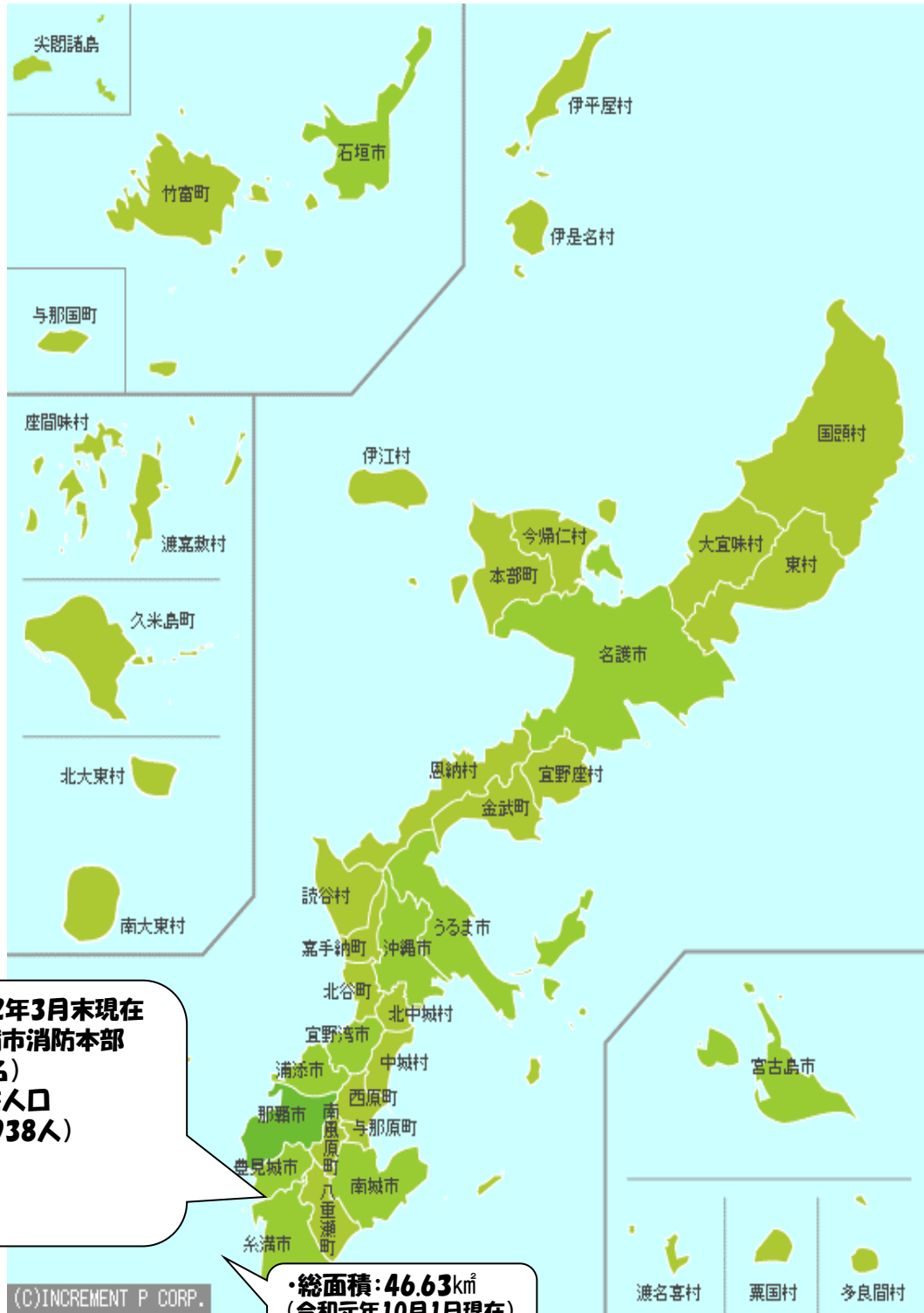


市勢、消防の沿革

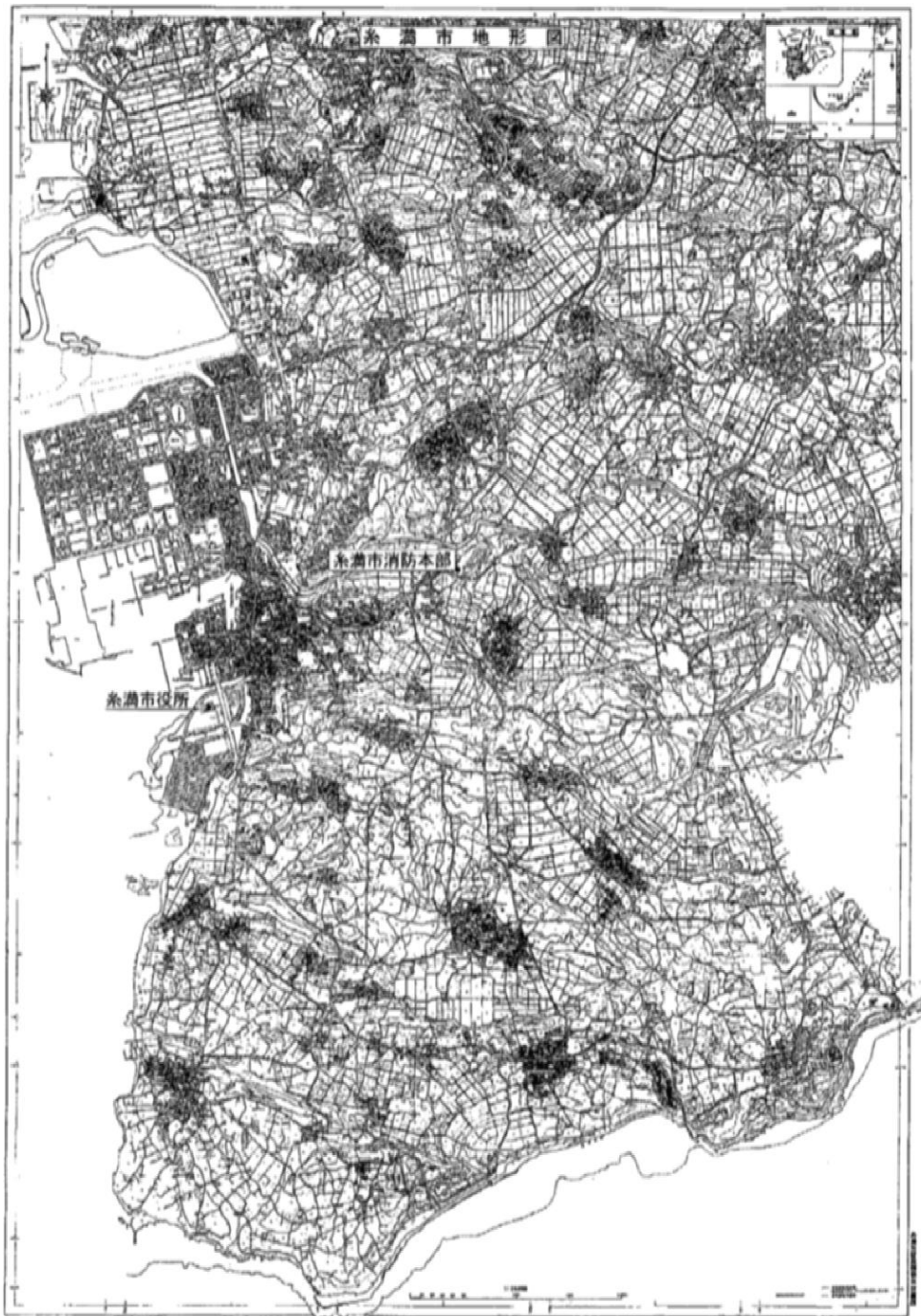




糸満市
消防本部



糸満市略図



糸満市消防本部の沿革

昭和 9 年	4 月 30 日	糸満町消防組発足 初代組長 上原 忠藏
昭和 12 年	5 月 1 日	糸満町消防組自動車唧筒ガソリン唧筒購入
昭和 21 年	4 月	終戦により消防団再編 常備団5名 軍払い下げガソリンポンプ けん引車配置
昭和 24 年		ガリオア資金により水槽付ポンプ自動車1台購入配置
昭和 25 年		消防隊長に兼島 景俊 就任
	10 月	軍布令第28号（消防に関する法律）施行
	11 月	糸満町消防団を糸満町消防隊に改称 隊員（常備）6名
昭和 26 年	8 月	ガリオア資金により消防三輪ポンプ自動車1台購入配置
	10 月	消防車車庫、糸満ロータリー前に完成（木造2階建）
昭和 28 年		消防隊長 兼島 景俊 退任
	2 月 3 日	消防隊長に城田 徳尚 就任
昭和 29 年		米軍より払い下げ水槽付ポンプ自動車1台配備
昭和 33 年		米軍より払い下げジープ車（改造してポンプ車）配置
昭和 35 年	5 月	字糸満無番地（埋立地）に消防庁舎新築完成 （鉄筋コンクリート2階建）
	12 月 31 日	消防隊長 城田 徳尚 退任
昭和 36 年	1 月 1 日	消防隊長に金城 宏有 就任
	10 月 1 日	4ヶ町村（糸満町、兼城村、高嶺村、三和村）合併、新糸満町誕生 合併に伴い改造ジープ車2台配置（三和村、兼城村より移管） 新町誕生により職員定数条例改正 常備職員6名 非常備106名
昭和 37 年	6 月 15 日	消防組織法施行（沖縄）
	12 月	同上法施行により糸満町消防団に改称 消防団長に金城 宏有 就任 職員定数条例改正 常備職員2名増（定数8名）
昭和 38 年	3 月 31 日	消防団長 金城 宏有 退任
	4 月 1 日	初代消防長に金城 宏有 就任
	4 月 11 日	糸満町消防条例ならびに糸満町消防本部設置規則により、 糸満町消防本部を設置 常備職員8名 非常備108名
	8 月 1 日	消防職員1名 採用
	10 月 2 日	町長部局より1名出向
	11 月 22 日	消防職員1名 採用
	12 月	国庫補助により水槽付ポンプ自動車1台（積載水2,300ℓ）購入し配置
昭和 40 年	7 月	糸満町役場よりセドリックワゴン車の譲渡を受け指令車として配置

昭和 41 年	1 月 18 日	字糸満において放火による大火災 死者2名、全焼4軒、4世帯12名が焼け出される
	4 月 2 日	職員定数条例改正により 常備職員3名増 (定数15名)
昭和 43 年	1 月 22 日	消防職員1名 退職
	5 月 1 日	消防職員1名 退職、1名 採用
	7 月 1 日	町長部局より1名 出向
昭和 44 年	3 月 5 日	消防職員1名 採用
	12 月 30 日	消防職員1名 退職
昭和 45 年	10 月 1 日	消防組織法改正 (1970年9月22日立法171号) により消防業務 (建築確認同意事務および危険物取扱認可事務) 警察局より移管
昭和 46 年	1 月 1 日	職員定数条例改正 常備職員2名増 (定数17名)
		町長部局より1名 出向
	1 月 30 日	字糸満在、糸満バカス飼料工事倉庫が中学生の喫煙により火災発生、那覇、豊見城、東風平より消防車の応援を得9時間後に鎮火 損害額 \$ 385,000
	2 月 1 日	町長部局より1名 出向
	2 月 5 日	消防職員1名 退職
	3 月 1 日	町長部局より1名 出向
	7 月	水槽付ポンプ自動車 (軽化学車) 1台 (積載水1,500ℓ 薬剤200ℓ) 購入し配置
	12 月 1 日	糸満市に昇格 新糸満市誕生
昭和 47 年	1 月	日本損害保険協会より国産トヨタジープポンプ車1台の寄贈を受け配置
	1 月 1 日	職員定数条例改正 常備職員3名増 (定数20名)
	4 月 1 日	消防職員4名 採用 市長部局へ1名 出向 (20名)
	5 月 15 日	本土復帰 糸満市消防本部及び消防署の設置等に関する条例施行
	6 月 1 日	復帰に伴い救急業務が警察本部より各市町村に移管
	10 月 20 日	職員定数条例改正 消防職員3名増 (定数23名)
	10 月 20 日	糸満造船所において船舶火災の消火中、警防係長 玉城 朗扶司令 漏電により殉職
	11 月 20 日	消防職員3名 採用 (22名)
昭和 48 年	1 月 5 日	消防職員1名 採用 (23名)
	2 月 20 日	消防職員1名 退職 (22名)
	3 月	日本自動車工業協会より救急車 (トヨタ) 1台の寄贈を受け配置
	4 月 1 日	職員定数条例改正 消防職員3名増 (定数26名)
	5 月 1 日	消防職員1名 採用 (23名)

昭和 48 年	7 月 1 日	消防職員1名 採用	(24名)
	7 月 5 日	消防職員1名 退職	(23名)
	9 月 15 日	消防職員2名 採用	(25名)
昭和 49 年	3 月	水槽付ポンプ自動車 (いすゞ 積載水3,000ℓ) 購入し配置	
	3 月 1 日	消防職員1名 採用	(26名)
	4 月 1 日	職員定数条例改正 消防職員3名増 事務職員1名増	(定数30名)
		消防職員1名 採用	(27名)
	4 月 15 日	消防職員1名 採用	(28名)
	5 月 1 日	消防職員1名 採用	(29名)
	7 月 1 日	事務職員1名 採用	(30名)
	11 月 1 日	職員定数条例改正 消防職員3名増	(定数33名)
	12 月 1 日	消防職員2名 採用	(32名)
	12 月 3 日	消防職員1名 採用	(33名)
昭和 50 年	3 月 17 日	日本損害保険協会より救急車 (日産) 寄贈を受け配置	
	4 月 5 日	消防職員2名 退職	(31名)
	5 月 1 日	消防職員2名 採用	(33名)
	7 月 1 日	消防本部機構改革により 総務課、警防課を新設 海洋博消防署に職員1名派遣 職員定数条例改正 消防職員3名増	(定数36名)
		消防職員3名 採用	(36名)
	7 月 23 日	人事異動により消防長 金城 宏有 退任	(35名)
	7 月 24 日	2代目消防長に比嘉 幸信 就任	
	8 月 4 日	日本消防協会寄贈の広報車署に配置	
	9 月 1 日	消防職員1名 採用	(36名)
	11 月 15 日	国庫補助により20m級屈折梯子車を購入し配置	
昭和 51 年	4 月 1 日	水道部へ職員1名 出向 水道部より職員1名 出向	(36名)
	11 月 19 日	「第7回沖縄県消防人の集い」本市で開催 (文化会館於)	
	12 月 1 日	教育委員会へ事務職員1名 出向	(35名)
昭和 52 年	1 月 17 日	消防職員1名 採用	(36名)
	4 月 13 日	市長部局へ職員1名 出向	(35名)
	9 月 1 日	職員定数条例改正 消防職員3名増	(定数39名)
		消防職員4名 採用	(39名)
昭和 53 年	10 月 11 日	職員定数条例改正 消防職員2名増	(定数41名)
		消防職員2名 採用	(41名)
	12 月 11 日	小型動力ポンプ付水槽車 (10,000ℓ) 購入 署に配置	
昭和 54 年	3 月 31 日	消防職員1名 退職	(40名)

昭和 54 年 8 月 8 日 消防職員1名 退職 (39名)
 昭和 55 年 8 月 20 日 消防職員2名 採用 (41名)
 昭和 56 年 2 月 17 日 救助工作車購入 署に配置
 8 月 28 日 日本損害保険協会寄贈の水槽付ポンプ自動車 署に配置
 10 月 2 日 第2回沖縄県消防職員意見発表会 最優秀賞
 昭和 57 年 9 月 30 日 日本消防協会寄贈の救急車 署に配置
 10 月 1 日 職員定数条例に伴う定数減で教育委員会へ1名 出向 (定数40名)
 昭和 58 年 3 月 29 日 消防職員1名 勸奨退職 (39名)
 4 月 18 日 水道部へ職員1名 出向 (38名)
 6 月 1 日 消防職員2名 採用 (40名)
 8 月 20 日 消防指令車 購入
 10 月 18 日 屈折梯子車 (20m級) オーバーホール
 昭和 59 年 10 月 30 日 第1回沖縄県総合防災訓練西崎町にて実施
 昭和 60 年 4 月 16 日 予防査察車 (日産キャラバン) 購入 署に配置
 8 月 21 日 日本消防協会より消防指令広報車寄贈
 昭和 61 年 2 月 3 日 人事異動より消防長 比嘉 幸信 退任
 2 月 4 日 3代目消防長に大城 良正 就任 (40名)
 3 月 20 日 日本損害保険協会から救急自動車寄贈 署に配置
 昭和 62 年 10 月 25 日 第42回 国民体育大会秋季大会に伴う消防警備を実施
 (10月25日～10月30日 延べ職員75人 団員34人)
 昭和 63 年 2 月 15 日 水槽付ポンプ自動車 (水Ⅱ型) 購入
 昭和 64 年 1 月 6 日 人事異動より消防長 大城 良正 退任
 1 月 7 日 4代目消防長に新垣 英助 就任 (40名)
 平成 元年 3 月 10 日 消防自動車を購入 署に配置
 3 月 31 日 消防職員2名 市長部局へ出向 (38名)
 4 月 15 日 消防職員2名 採用 (40名)
 7 月 10 日 消防庁舎起工式
 12 月 2 日 消防職員1名 退職 (39名)
 平成 2 年 1 月 31 日 消防庁舎竣工 消防緊急情報システム完成
 3 月 1 日 新消防庁舎に移転業務開始
 3 月 30 日 新庁舎落成式
 4 月 1 日 消防職員1名 市長部局へ出向 1名 採用 (39名)
 予防係を予防課へ昇格、甲・乙当務を第1・第2警備係へ変更
 8 月 16 日 消防職員1名 退職 (38名)
 9 月 4 日 訓練塔工事着工
 11 月 28 日 沖縄県総合防災訓練 (西崎町)

平成 3年 1月 31日 訓練塔竣工
 4月 1日 消防職員1名 市長部局へ出向 3名 採用 (40名)
 9月 14日 台風17号で宮崎船舶遭難、捜索活動を行う
 平成 4年 1月 31日 消防職員1名 勸奨退職 (39名)
 3月 31日 人事異動により消防長 新垣 英助 退任
 4月 1日 5代目消防長に上原 健市 就任 (39名)
 教育委員会から1名 出向 (40名)
 9月 29日 日本船舶振興会より救急車寄贈 署に配備
 平成 5年 3月 31日 消防職員1名 定年退職 (39名)
 4月 1日 消防職員1名 市長部局へ出向 5名 採用 (43名)
 4月 25日 第44回 全国植樹祭
 11月 17日 自治体消防45周年へ糸満より11名参加 (東京ドーム)
 平成 6年 7月 14日 第23回九州地区消防救助技術指導大会 (那覇市奥武山開催)
 宜保 馨消防士、水上の部 複合検索出場
 平成 7年 2月 21日 30M級専用シャーシ梯子車配備 (国庫補助)
 5月 24日 救急救命士国家試験合格、初の救急救命士誕生 金城正副士長
 8月 25日 第24回全国消防救助技術指導大会 (福岡県北九州市開催)
 宜保 馨消防士、水上の部 複合検索出場
 平成 8年 3月 6日 糸満市消防本部・消防団へ消防庁長官より竿頭綬を授与
 3月 11日 小型動力ポンプ付水槽車配備 (国庫補助)
 3月 21日 救助工作車配備 (国庫補助)
 3月 31日 消防職員2名 定年退職 (41名)
 4月 1日 消防職員2名 採用 (43名)
 4月 18日 救急救命士国家試験合格 (2人目誕生)
 7月 18日 第25回九州地区消防救助技術指導大会 (鹿児島県国分市開催)
 宜保 馨消防士、水上の部 複合検索出場
 7月 31日 人事異動により消防長 上原 健市 退任 (42名)
 8月 1日 6代目消防長に新垣 和雄 就任
 10月 30日 火災原因調査用消防自動車配備 (単独事業)
 11月 14日 糸満市防災訓練 (西崎町)
 12月 30日 字潮平のアパートにおいて、一酸化炭素中毒
 (瞬間湯沸器の不完全燃焼)による事故で死者5名 発生
 平成 9年 3月 1日 水槽付ポンプ自動車 (水Ⅱ型) 配備 (国庫補助)
 4月 1日 消防署・警備係を2部制から3部制に改める
 消防職員1名 採用 (43名) 救命士 (計2名)

平成 9 年 7 月 24 日 第26回九州地区消防救助技術指導会（長崎県佐世保市開催）
宜保 馨消防士、水上の部 複合検索出場

10 月 1 日 広報用消防自動車配備（単独事業）

10 月 8 日 消火・通報訓練指導車（けすぞうくん）本庁より移管・配備

平成 10 年 7 月 16 日 第27回九州地区消防救助技術指導会（宮崎県日向市開催）
宜保 馨消防士、水上の部 複合検索出場

12 月 15 日 住宅用火災警報器設置（モニター事業）、上之平区一帯（100世帯）

平成 11 年 1 月 18 日 救急普及啓発広報車受納式（救急振興財団：寄贈）

3 月 30 日 救急自動車（2B型）配備（単独事業）

10 月 19 日 第2回糸満市総合防災訓練（西崎町）

12 月 27 日 普通ポンプ自動車配備（国庫補助）

平成 12 年 7 月 21 日 九州・沖縄サミット消防特別警備（摩文仁平和の礎）

8 月 18 日 消防職員1名 退職（42名）

平成 13 年 2 月 7 日 水槽付ポンプ自動車（水Ⅱ型）配備（国庫補助）

4 月 1 日 消防職員1名 採用（43名）救命士（計3名）

7 月 19 日 第30回九州地区消防救助技術指導会（沖縄県那覇市開催）
金城 明消防副士長、久手堅 正和消防士 ロープ応用登はん 出場

10 月 25 日 消防職員1名 大渡海岸で潜水訓練中事故死（42名）

平成 14 年 1 月 16 日 消防職員1名 休職（41名）

3 月 31 日 消防長 新垣 和雄 退任

4 月 1 日 7代目消防長に金城 安秀 就任
消防職員1名 採用（42名）救命士（計4名）
市長部局より事務吏員1名 出向（43名）
機構改革により予防課・警防課を廃止、予防係を総務課へ配置
警防係を警備係へ変更し、救急救助係と共に署へ配置。署第1警備係・
第2警備係・第3警備係をそれぞれ課に昇格し管理職を配置

8 月 2 日 第31回九州地区消防技術指導会（大分県大分市開催）
上原 秀昭消防士長、神谷 努消防士 ロープ応用登はん 出場

平成 15 年 5 月 6 日 救急救命士資格取得（計5名）

6 月 1 日 元消防長 比嘉 幸信氏 勲五等双光旭日章受章

平成 16 年 2 月 24 日 高規格救急車配備（国庫補助）

4 月 1 日 緊急消防援助隊 ポンプ隊 救急隊 登録
消防職員2名 採用（45名）救命士（計7名）

4 月 13 日 高規格救急車運用開始

5 月 24 日 救急救命士資格取得（計8名）

6 月 30 日 消防職員1名 勲奨退職

平成 16 年 9 月 9 日 沖縄県知事より糸満市消防本部救急隊へ救急医療功労章受章
 12 月 31 日 消防職員1名 勸奨退職 (44名)
 平成 17 年 1 月 1 日 消防職員1名 採用 (45名) 救命士 (計9名)
 3 月 3 日 糸満市消防本部・消防団へ消防庁長官より表彰旗を授与
 3 月 31 日 消防長 金城 安秀 退任
 消防職員2名 勸奨退職 (42名)
 4 月 1 日 8代目消防長に嶺井 安生 就任 (43名)
 消防職員1名 事務吏員1名 市長部局へ出向、消防職員1名 採用
 市長部局より事務吏員3名出向 (45名)
 6 月 9 日 救急救命士資格取得 (計10名)
 平成 18 年 3 月 25 日 30M級梯子自動車オーバーホール納車 (3,780万円)
 4 月 1 日 事務吏員3名 市長部局へ出向、事務吏員1名 市長部局より出向
 消防職員2名 採用 (45名) 救命士 (計12名)
 12 月 31 日 消防職員1名 勸奨退職 (44名)
 平成 19 年 3 月 31 日 消防長 嶺井 安生 退任
 消防職員1名 勸奨退職 (42名)
 4 月 1 日 9代目消防長に玉城 一春 就任 (43名)
 5 月 30 日 マスターズボール糸満 火災 0時47分119番入電 17時03分鎮火
 活動人員延べ83名 (内近隣消防応援46名) 車両23台
 7 月 31 日 消防職員1名 勸奨退職 (42名)
 平成 20 年 2 月 17 日 糸満市総合防災訓練実施 (潮崎町)
 3 月 18 日 高規格救急車配備 (2台目)
 3 月 31 日 消防長 玉城 一春 退任 (41名)
 事務吏員1名 市長部局へ出向 (40名)
 4 月 1 日 10代目消防長に徳元 勲 就任
 消防職員4名 採用 (45名) 救命士 (計15名)
 9 月 5 日 沖縄県総合防災訓練 (西崎町)
 平成 21 年 3 月 31 日 消防長 徳元 勲 退任
 消防職員 1名 勸奨退職 消防職員1名 退職 (42名)
 救命士 (計14名)
 4 月 1 日 11代目消防長に金城 誠栄 就任
 消防職員2名 採用 (45名) 救命士 (計16名)
 消防署に消防署長を単独配備 (消防長兼任を解く)
 10 月 1 日 職員定数条例改正 (定数51名) 現員45名
 10 月 21 日 糸満市消防広域化等検討委員会発足
 平成 22 年 1 月 6 日 糸満市消防殉職者慰霊祭及び植樹祭開催 (消防署)

平成 22 年 4 月 1 日 事務吏員1名 市長部局へ出向 (44名)
市長部局より事務吏員1名 出向 (45名)

4 月 1 日 事務吏員1名 消防広域化等研究協議会へ派遣
消防職員3名 採用 (48名) 救命士 (計19名)

12 月 31 日 消防職員1名 退職 (47名) 救命士 (計19名)

平成 23 年 3 月 17 日 総務省消防庁の要請に応じ、東北地方太平洋沖地震にかかる
沖縄県緊急消防援助隊として被災地 岩手県へ
高規格救急車1号車 (1台) 救急隊 (救命士3名)
金城正樹副士長 上原安弘副士長 長尾賢一消防士 派遣

3 月 31 日 人事異動により消防長 金城 誠栄 退任

4 月 1 日 12代目消防長に國吉 秀昭 就任
消防職員4名 採用 (50名) 救命士 (計20名)

4 月 30M級梯子自動車オーバーホール納車 (3,599万円)

平成 23 年 7 月 消防職員1名 退職 (49名) 救命士 (計20名)

平成 24 年 3 月 31 日 沖縄県消防広域化推進協議会 解散
消防長 國吉 秀昭 定年退職
消防職員 1名 定年退職

4 月 1 日 13代目消防長に上原 義弘 就任
事務吏員 2名 市長部局へ 出向 (45名)
市長部局より事務吏員1名 出向 (46名)
消防職員 5名 採用 (51名) 救命士 (計23名)

6 月 5 日 全国瞬時警報システム (J - A L E R T) 配備 (国庫補助)

10 月 11 日 水難救助用船舶 (はやぶさ) 1艇
船舶用トレーラー1台 配備 (一括交付金)

11 月 17 日 18日 (2日間) 第32回 全国豊かな海づくり大会 行幸啓消防警備

平成 25 年 1 月 20 日 糸満市総合防災訓練実施 (糸満漁港北地区)

1 月 29 日 大度海岸に水難救助艇用スロープ設置 当該用地 (220㎡)
内閣府沖縄総合事務局より無償譲受る (一括交付金)

2 月 21 日 高規格救急自動車 一般社団法人 日本損害保険協会 (寄贈)

3 月 31 日 消防職員 2名 勸奨退職 (49名) 救命士 (計23名)
消防職員 1名 普通退職 (48名) 救命士 (計22名)
消防職員 1名 定数外休職 (47名) 救命士 (計22名)

4 月 1 日 消防職員 4名 採用 (51名) 救命士 (計24名)
事務吏員 1名 沖縄県消防通信指令施設運営協議会へ派遣

7 月 22 日 住宅用火災警報器・住宅用消火器配布等モデル事業
(全国消防機器協会より、住警器100個・消火器25本配布)

平成 25 年 11 月 25 日 自治体消防65周年・消防団120周年記念事業(総務課長・団長出席) 東京ドーム
 11 月 27 日 緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練(サテライト会場：摩文仁)
 12 月 4 日 移動式高圧コンプレッサー 配備 (一括交付金)
 平成 26 年 1 月 20 日 糸豊環境美化センター工場棟 建物火災
 活動職員20名 団員10名 車両7台 (内近隣消防応援10名 車両2台)
 1 月 30 日 消防救急デジタル無線及び沖縄県消防共同指令センターの
 整備に関する協定書締結
 3 月 1 日 資機材搬送車 1台 配備 (一括交付金)
 3 月 31 日 消防長 上原 義弘 定年退職 (50名) 救命士 (計24名)
 消防職員 2名 定年退職 (48名) 救命士 (計24名)
 定数外休職者 1名 勸奨退職
 4 月 1 日 14代目消防長に金城 信行 就任
 消防職員 3名 採用(51名) 救命士 (計24名)
 12 月 24 日 救助工作車 1台 配備 (公共施設整備基金及び防災対策事業債)
 平成 27 年 3 月 31 日 消防長 金城 信行 定年退職 (50名) 救命士 (計24名)
 4 月 1 日 15代目消防長に賀数 淳 就任
 消防職員 1名 採用(51名) 救命士 (計24名)
 事務吏員 1名 沖縄県消防通信指令施設運営協議会へ派遣
 6 月 18 日 職員定数条例改正 消防職員7名増 (定数58名)
 8 月 25 日 糸満市災害対策連絡協議会発足
 (陸上自衛隊南与座分屯地、航空自衛隊与座岳分屯基地、糸満警察署、
 糸満市消防本部、糸満市役所防災係)
 8 月 31 日 医療法人仁清会 かみや母と子のクリニックより消防司令車 寄贈
 消防本部に配備
 10 月 1 日 事務吏員 1名 沖縄県消防通信指令施設運営協議会へ派遣
 10 月 26 日 水槽付ポンプ自動車(CAFS)1台 配備(緊急防災・減災事業債)
 平成 28 年 3 月 2 日 消防長表彰(1月29日、中学生3名による火災の早期発見表彰)
 3 月 30 日 沖縄県消防指令センター 開所(ニライ消防本部2階)
 4 月 1 日 沖縄県消防指令センター運用開始
 消防職員 8名 採用(定数58名、実員59名) 救命士 (計27名)
 6 月 12 日 沖縄県の要請に応じ、熊本地震にかかる
 12班及び13班の派遣職員として被災地 熊本県へ
 12班 平良 仁志 消防副士長、13班 上原 貴一 消防副士長
 8 月 31 日 総務省消防庁 市町村消防の「柔軟な連携・協力」における
 ヒアリング 消防庁消防・救急課長 小宮大一郎氏 来庁
 12 月 1 日 消防長表彰(7月24日、落雷による傷病者の人命救助表彰)

平成 29 年	1 月 1 日	玉城木工所 火災 16時14分119番入電 22時58分鎮火 活動人員延べ34名 (内近隣消防応援18名) 車両12台
	3 月 22 日	高規格救急車4号車 (1台) 配備 緊急防災・減災事業債
平成 29 年	3 月 31 日	消防職員 4名 定年退職 (55名) 救命士 (計26名)
	4 月 1 日	消防職員 3名 採用 (58名) 救命士 (計27名) 糸満市の機構改革 消防本部に予防課を復活し、総務課より予防係を移管。 消防署の第1警備課、第2警備課、第3警備課を廃止し、第1警備係、 第2警備係、第3警備係を消防署長直轄とする。 消防署長兼警防課長の兼職を解く。
	5 月 18 日	消防長表彰 (5月4日、水難事故による人命救助表彰2名)
	6 月 28 日	タンク車 (1台) 更新 防災対策事業債
平成 30 年	1 月 2 日	富士盛産業 火災 15時27分119番入電 1月4日13時30分鎮火 活動人員延べ139人 (内近隣消防応援85名) 車両20台
	3 月 7 日	自治体消防制度70周年記念式典 (消防長 賀数 淳 出席)
	3 月 22 日	火災原因調査車 (1台) 更新 防災対策事業債
	5 月 7 日	第30回危険業務従事者叙勲 元消防長 國吉 秀昭 受章
	7 月 4 日	消防長表彰 (6月3日、水難事故による人命救助表彰4名)
	7 月 20 日	第47回九州地区消防救助指導会 (大分県開催) 比嘉 昭消防副士長、島袋 直人消防副士長、 大城 護彰消防士、上原 拓海消防士 ロープブリッジ救出の部出場
	7 月 20 日	住宅用火災警報器・住宅用消火器配布等モデル事業 (全国消防機器協会より、住警器100個・消火器25本配布)
平成 31 年	1 月 31 日	全国瞬時警報システム (J-ALERT) 更新
	2 月 18 日	消防長表彰 (11月25日、水難事故による人命救助表彰3名 12月9日、水難事故による人命救助表彰1名)
	3 月 15 日	水上オートバイ、ボートトレーラー更新 (単独事業)
	3 月 31 日	消防長 賀数 淳 定年退職 (57名) 消防職員 1名 定年退職 (56名)
平成 31 年	4 月 1 日	16代目消防長に福元 毅 就任 消防職員 2名 採用 (59名) 救命士 (計28名)
令和 元年	7 月 19 日	第48回九州地区消防救助技術指導会(佐賀県) 蔵盛 章仁 消防副士長、安里 正巳 消防副士長 新垣 盛啓 消防副士長、東 泰隆 消防士 ロープブリッジ救出の部出場

- 8 月 25 日 第48回全国消防救助技術大会(岡山県)
上間 海渡 消防士、伊敷 圭梧 消防士 ロープ応用登はんの部出場
- 10 月 3 日 高規格救急車3号車 (1台) 配備 緊急防災・減災事業債
- 11 月 3 日 第33回危険業務従事者叙勲 元消防長 上原 義弘 受章
- 12 月 14 日～15日(2日間) 第43回 全国育樹祭行事 お成り消防警備
- 令和 2 年 3 月 4 日 令和元年度消防功労者消防庁長官表彰
消防署長 金城 薫 永年勤続功労章 受章
- 3 月 7 日 全国消防長会 令和元年度永年勤続功労者表彰
参事兼総務課長 金城 明、予防課長 東風平 朝利 受章
- 3 月 31 日 消防職員 1名 定年退職 (58名) 救命士 (計27名)

歴 代 消 防 長

歴 代	職 名	氏 名	就任年月日	退任年月日	備 考
初代	消防長	金城 宏有	昭和38年4月1日	昭和50年7月23日	
2	〃	比嘉 幸信	昭和50年7月24日	昭和61年2月3日	
3	〃	大城 良正	昭和61年2月4日	昭和64年1月6日	
4	〃	新垣 英助	昭和64年1月7日	平成4年3月31日	
5	〃	上原 健市	平成4年4月1日	平成8年7月31日	
6	〃	新垣 和雄	平成8年8月1日	平成14年3月31日	
7	〃	金城 安秀	平成14年4月1日	平成17年3月31日	
8	〃	嶺井 安生	平成17年4月1日	平成19年3月31日	
9	〃	玉城 一春	平成19年4月1日	平成20年3月31日	
10	〃	徳元 勲	平成20年4月1日	平成21年3月31日	
11	〃	金城 誠栄	平成21年4月1日	平成23年3月31日	
12	〃	國吉 秀昭	平成23年4月1日	平成24年3月31日	
13	〃	上原 義弘	平成24年4月1日	平成26年3月31日	
14	〃	金城 信行	平成26年4月1日	平成27年3月31日	
15	〃	賀数 淳	平成27年4月1日	平成31年3月31日	
16	〃	福元 毅	平成31年4月1日		

歴 代 消 防 団 長 ・ 隊 長

歴 代	職 名	氏 名	就任年月日	退任年月日	備 考
初代	団 長	上原 益直			
2	〃	上原 信盛			
3	隊 長	兼島 景俊	昭和 2 5 年	昭和 2 8 年	
4	〃	城田 徳尚	昭和28年2月3日	昭和35年12月31日	
5	団長（隊長）	金城 宏有	昭和36年1月1日	昭和38年3月31日	
6	団 長	大城 敏一	昭和38年4月1日	平成6年3月31日	
7	〃	波平 一男	平成6年4月1日	平成20年6月30日	
8	〃	新垣 幸生	平成20年7月1日		